

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4271500987 | | |
| 法人名 | 有限会社UTASI | | |
| 事業所名 | グループホームうたし | | |
| 所在地 | 長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦986番地38 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年12月5日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年2月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構 | | |
| 所在地 | 長崎県島原市南柏野町3118-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年1月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年に引き続きコロナ禍の影響で面会や外出が制限される中、家族とパソコンを使用してリモート面会やテレビ電話を行い交流を図っている。また、季節のお花や食べ物の楽しみを味わって頂けるよう、ドライブにて支援行っている。また、テレビの動画配信にて、季節のお花や、懐かしの歌、全国の建物などを視聴し、穏やかに過ごせるよう援助行っている。そして、ご本人の現在の能力を活かせるよう出来る範囲での活動を促し自信と役割を持てるよう援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅地の中に位置し、リビングの窓から日本海や平戸方面を一望できることで入居者の癒しとなっている。職員はホーム理念「自分らしくありのままに」を実践し、食事や入浴時間を決めることなく入居者が自由に過ごしてもらうことで、その方の希望に沿った生活が送れるよう支援している。ホームと地域との関係性は良好で、地元保育園や地域の方より季節にちなんだプレゼントや花や野菜などの差し入れがあるなど入居者の楽しみとなっている。市主催の介護教室ではホーム職員が講師役を担い開催し、多くの地域の方が参加されており積極的に地域へ貢献する姿が窺える。有事の際は地域より人員・物資の協力体制を整え、地域におけるネットワークを構築している。管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを大切にしており、相談しやすい雰囲気づくりや職員の資格取得に向けたバックアップを行うなど働きやすい職場づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット名

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「自分らしくありのままに」の理念に基づき、利用者の気持ちを尊重し、寄り添い安心して生活できるよう援助している。 | ホーム理念はリビングに掲示しており、職員は毎月開催されるスタッフ会議にて理念を確認し周知を図っている。ホームはこれまでの入居者の生活リズムを大切に考え、一日の日課にこだわらず、食事や入浴の時間を決めずに自由に過ごしてもらなど、その方の希望に沿った生活が送れるよう支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 昨年に引き続き、コロナ禍の影響で外出や面会制限、慰問等の外部との交流を中止しているが、出来る範囲で、近所の園児たちや地域の方からの季節の飾り物のプレゼントやお花を頂き交流は継続している。 | 地元保育園より七夕の笹飾りや鯉のぼりの贈り物、地域の方が制作した季節にちなんだペーパークラフトの贈り物があるなど入居者の楽しみとなっている。入居者は地区の老人会へ加入しており、敬老会が開催される際には入居者も参加するなど、地域との交流を楽しまれている。地域の方からの季節の花や野菜の差し入れがあるなど日常的な交流が窺える。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 11月26日、鹿町地区コミュニティーセンターで職員参加の介護教室開催し、「高齢者の権利擁護、成年後見制度」のセミナーを行った。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 昨年に引き続きコロナ禍の影響で運営推進会議の開催を中止しており、ホーム内の活動報告や職員の研修報告、情報などは文書にて送付し、また、意見や要望などは随時受け付けている。令和4年1月からは開催予定である。 | 運営推進会議には自治会長・民生委員・地区役員・市職員・家族が参加し、事故報告・ヒヤリハット報告・消防訓練・看取り介護・身体拘束適正化検討委員会の詳細な報告を行うことでホームへの理解を得ている。現在はコロナ禍である為書面での開催となっているも、事前に会議資料を送付することで、多くの意見が寄せられるなど活発な意見交換の場となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の中止により、市担当者の方には事業所の実情や取り組みなど資料や議事録を提出し協力関係を築いている。 | 地域包括支援センターには、定期的にホームの空き状況や実情などを電話にて伝え理解を得ている。ホーム入居中に生活保護へ移行した事例があり、ホームより家族へ働きかけ、行政へ相談・協力を得ながら支援したことで本人・家族の安心へと繋げている。今年度は市主催の研修会「認知症ケアの手法」「身体拘束について」に参加し、学びの機会とした。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | オンライン研修に参加したり、3か月に1回身体拘束適正化検討委員会を開催し、DVD鑑賞を行うなど、職員間で再認識、再確認に努めて意識を高めている。 | 身体拘束適正化検討委員会には全職員・自治会長・心療内科医・司法書士・家族が参加し、ホームの実情を知らせると共に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、転倒防止の為、センサーマットを夜間のみ使用している入居者がいるが、家族へ同意を得て、適宜見直しや検討を行うことで不必要な使用にならないよう努めている。 | 職員の身体拘束についての3原則(切迫性・非代替性・一時性)への理解に曖昧さが窺えた。現在ホームではセンサーマットを使用している入居者がいることから、3原則とともに、禁止の対象となる具体的な行為の理解を深めることで更なる身体拘束をしないケアに繋げることに期待したい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | オンライン研修に参加したり、月1回の職員会議やケアカンファレンスでの意見交換などで日々の振り返りや情報を共有し、虐待防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 介護教室で学んだ事を活かせるように努め、個々の必要性に応じて活用できるよう定期的に書類の確認や助言を頂いている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 説明を行う際は、丁寧に、理解しやすいような言葉かけを心掛けている。また、利用者や家族が契約や改定の際に不安に思っている事や疑問点を解決するため、十分な説明が出来るよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者が日々の暮らしの中での想いを引き出せるよう、話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族には、リモートでの面会時や電話連絡時、また、毎月の請求書送付や運営推進会議資料を送付する際に意見や要望を求めている。意見や要望があった場合には、記録や報告を行っている。 | ホームは家族の面会時や電話連絡の際に入居者の日常の様子を伝えることで意見が言いやすいよう努めている。入居者・家族の希望にてオンライン面会を開始し、家族へ使用方法など詳細に伝え活用したことで、入居者・家族の喜びや安心に繋げるなど家族の意見や要望を運営に反映させている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月職員会議を開催しており、職員間での意見や要望を聞いてコミュニケーションが図れるように努めている。また、日頃の申し送りの際や食事時間、休憩の際にも、相談事や提案など何でも話しやすい環境を作れるよう心がけている。 | 管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを大切にしており、相談しやすい雰囲気づくりや資格取得に向けた支援をするなど働きやすい職場づくりに努めている。職員の提案にて浴室やトイレに手すりの設置や、車椅子に取り付けるテーブルを購入するなど、入居者の安全と自立支援に繋げており、具体的に運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格手当が設けられている。また、職員それぞれに業務の中で担当する役割を持ち、やりがいや自信が感じられるよう配慮している。毎月の希望休や有給休暇も取りやすいよう配慮している。また、ユニフォームも揃えている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | コロナ禍の影響によりオンライン研修になっているが、職員それぞれが必要な研修を率先して受講できるよう促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍の影響によりオンライン研修が主だが、職員それぞれの希望や必要性のある研修には進んで参加を促しネットワーク作りや情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所予定の方や、その家族には出来る限り来所して頂いてホーム内の見学や説明を行っている。本人が不安や疑問に思っている事は丁寧に傾聴して寄り添い、安心できるように声かけを配慮し良い関係が築けるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ホームに来所された際や面会時には、家族の不安や疑問を傾聴し、寄り添い、安心して頂けるよう丁寧な対応を心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族が必要としている支援を見極めることが出来るよう、日頃の様子や、本人と家族の想いを把握し、その時の状態に応じたサービス利用が出来るよう選択肢の提供や援助に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人が出来る範囲で取り組んで頂けるように食事準備や片付け、洗濯物たたみなどの家事手伝いを一緒に取り組みやりがいや自信が持てるよう配慮している。また、日常生活の中で、職員や入居者同士との会話や言動を見守り良い関係が築けるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の思いや本人を支える家族の思いを大切に、入所後も絆を大切にしてお互い支え合う関係が築けるよう面会や手紙、電話などを通じて支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍の影響で外出や面会の制限が続いているが出来る限り本人の希望に添えるよう家族や馴染みの方との交流は電話や絵はがきなどで促し援助している。 | 入居者は地域の老人会へ加入しており、敬老会に参加するなど地域の中で暮らしていけるよう支援している。職員は入居者が希望した際は、墓参りや馴染みの美容室を訪れるなど、関係継続の支援に努めている。文化展に習字などの入居者の作品を出展することで入居者の喜びとなり趣味活動が継続できるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入所者同士、共に交流できる場所や時間を設け、一緒に体操や学習に取り組んだり、それぞれが出来る範囲での家事手伝いに参加して頂き、スタッフも含め、談笑や交流を図りながら協力し関わり合えるよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | これまでの関係性を大切にして、入所者や家族が要望されれば、必要に応じた支援が出来るよう、医療関係への連絡や家族との連絡などで経過をフォローしたり相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | スタッフは日頃よりコミュニケーションを大切にして、日常生活の中で何気ない会話や、本人に寄り添いゆっくり話をする時間を設け、本人の思いや希望の把握に努めている。 | 職員は日光浴や散歩、足浴をする際などに入居者と1対1で話をする機会を持ち意向の把握に努めている。入居者より寂しさの表情や言葉が聞かれた際は、家族へ働きかけることで面会に繋げたり、家族写真を持参してもらうなど寂しさの軽減に努めている。職員は入居者の意向を介護記録にて共有し本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前の面談時に、利用されていたサービスの経過の把握や、本人、家族の情報収集に努め、入所後もこれまでの生活歴や環境、また、本人や家族の希望が暮らしに反映できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活での行動や会話などで本人の心身状態に合った過ごし方や有する力を把握できるような環境作りを心がけ、ちょっとした変化や気づきなどにも対応できるよう個々の記録に残し情報の共有に努め、寄り添い交流を図りながら援助している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入所者にそれぞれ担当スタッフを設け本人の現状、思いや気づき、今後の課題を定期的に話し合っている。ケアカンファレンスの際は、本人や家族の意見意向も伝え、スタッフの意見やアイデアを出し合い、介護計画書作成に反映できるよう努めている。 | 介護計画を見直す際は全職員でケアカンファレンスを開催し、現状把握と課題抽出を行うことで現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。家族へは電話にて意向を確認し理解を得ている。介護記録に介護計画が貼付しており、サービス内容が実施できているか毎日評価を行うことで確実なサービス提供に繋げている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入所者1人1人の介護日誌へ記録を残している。ちょっとした変化や気づきがある場合、申し送り用メモを活用し、スタッフ間での申し送りでも情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の体調変化や心身状態に合ったサービスが提供できるよう、日常生活での変化や気づきを大切に、スタッフや本人、家族の意見や希望を取り入れながら柔軟な支援ができるよう努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍の影響での制限により地域の方との交流の場は減ったが、近所への外出などの際、地元の方との会話などで少しでも交流の場を持ちふれあう時間が持てるよう援助している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望を尊重し納得されるかかかりつけ医を定期的に通院介助している。また、緊急性はないが受診困難時は電話にて相談や報告を行い内服処方のみ等、柔軟な対応で連携を図り援助している。 | 職員は入居前のかかりつけ医を継続して受診できるように支援している。近隣の同法人施設の看護師に、入居者の体調不良時などいつでも相談できる態勢を整え、入居者・家族の安心に繋げている。受診時は職員が介護記録・バイタルサイン表を持参し主治医へ詳細な情報提供を行うことで、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常生活の中で体調変化や気づきを早期発見できるよう観察や記録をしっかりと行い、情報共有に努め、看護師や訪問看護師に報告や相談を行い適切な対応が出来るよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入所者が入院時は病院に出向き病院関係者と情報交換を行っているが、コロナ禍の影響で出向く事が出来ない場合は定期的に電話をして情報共有や相談を行い治療に専念できるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所者が最後を迎えるにあたって、事業者として出来る事を早い段階から本人や家族に十分に説明し方針を共有している。また、医療機関との連携に努め、チームで支援できるよう取り組んでいる。令和3年、6月、看取り支援を行った。 | ホームは看取りに対して数年前から準備を進めており、研修の機会が多く設け研鑽している。今年度は入居者・家族の意向に沿い看取りを行い、最期まで本人の望む生活が送れるようホーム全体で支援した。ホームは重度化への取り組みとして、在宅酸素・喀痰吸引・点滴に対応可能であり、家族にも説明し理解を得ている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は入所者の急変時や事故発生時に備え医療機関からの指示や指導を共有し、また、日頃から研修などで得た知識や情報を振り返り急変や事故に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | ホーム内の消火・避難訓練を年に2回実施し、防災訓練は年に1回実施している。業者による点検、消防署による立ち入り点検も定期的に実施している。職員は日頃から災害に備え防火管理や備品の管理を行い、地域の方からも協力依頼の同意を頂き体制を整えている。 | 今年度は消防訓練2回、DVDを活用した研修、地震・水害を想定した防災訓練を実施し、緊急対応マニュアルの周知を図っている。入居者情報一覧はネームフォルダーにて個々に整備するなど、避難後のスムーズな対応に繋げている。有事の際は地域より人員・物資の協力態勢を整え地域のネットワークを構築している。 | 職員の自然災害対策計画書に対する周知に曖昧さが窺えた。定期的な読み合わせを行うことで、更なるマニュアルの周知に繋げることに期待したい。また、訓練実施結果の検証記録に参加職員名の記載がなかった為、記載することで経験の少ない職員が優先して参加できるよう取り組むことが望ましい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入所者1人1人を尊重しそれぞれの状態に合う言葉かけで対応できるよう工夫している。また、不適切な言葉遣い等がないよう職員同士が互いに意識しあい心がけている。 | ホームは職員へ接遇マナーに関するアンケートを実施し日々の振り返りを行うことで、不適切な言葉になりそうな時は、職員自ら気づいたり、職員同士で注意し合うなど改善に繋げている。職員は入居者と話す際は、視線を同じ高さに合わせ威圧感をあたえないよう配慮している。今年度は12月に「日常対応力」についての研修に参加し学びの機会とした。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入所者本人の意思や希望が言えるよう、環境、雰囲気作りを心掛け、自己決定や選択が出来るよう努めている。また本人の意思確認や行動の見守りができるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日常生活の中で、本人のその時の心身状態にあわせ、希望や思いを尊重し、ご自分のペースで過ごせるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望時や状態に合わせて行きつけの美容室へ出かけたり訪問美容師をお願いしている。また、家族による散髪や、状況により職員による散髪も行っている。本人に合った身だしなみが出来るよう衣類等の買い物も支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 本人の能力に合わせて出来る範囲のお手伝いをお願いしている。時には献立を一緒に考えたり、野菜の下ごしらえをお願いすることもある。毎食後の食器拭きは意欲的に取り組まれる。また、季節が感じられるような食事やお誕生日会などで行事食を提供し食事を楽しめるよう支援している。 | 献立はその日の調理担当職員が決めるため、その都度入居者のリクエストに対応することができる。また、入居者に献立の相談をするなど食事が楽しいものとなるよう支援している。朝食時間は大幅に設定しており、入居者一人ひとりの生活リズムに合わせて希望する時間に食事ができるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入所者それぞれの摂取量や食事形態に合わせ支援している。毎食の摂取量、水分摂取量を把握できるよう記録を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 1人1人の状態に合った口腔ケアの見守りや介助を行っている。口腔ケアの用品も個人の状態に合う物を準備している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し状況に応じて早めの声かけ、トイレ誘導を行っている。日中、失敗が減りトイレで排泄が出来る入所者でリハビリパンツから布パンツへ交換できた入所者もいる。 | 職員は入居者の昼夜の排泄状況やポータブルトイレへの移乗動作の確認を行い支援したことで、リハビリパンツから布パンツへ移行した事例があるなど排泄の自立支援に向け取り組んでいる。緩下剤を服用する時間帯は職員で話し合い検討することで、入居者の睡眠の妨げにならず快適に過ごせるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 入所者1人1人の食事や水分摂取量の把握に努め必要時は下剤の調整を行っている。なるべく自然排便が出来るよう日常的に乳製品や食物繊維の摂取を促し、体操や、入浴時や排泄時に適度な腹部マッサージを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 本人の体調やその時の気分に合わせ入浴介助ができるよう心掛けている。リラックスできるように入浴剤も準備し支援している。また、予定している入浴日以外でも、本人の希望時には対応できるよう心掛けている。入浴日以外でも足浴や手浴をして気分転換が図れるよう援助している。 | ホームは週に3回以上入浴できるよう支援している。入居者が希望した際は毎日でも入浴可能であり、また、時間も10時から18時と大幅に設定してあるなど入居者の生活リズムを大切に支援に努めている。女性入居者の介助には女性職員があたるなど羞恥心に配慮している。脱衣所は床暖房と冷暖房機にて浴室との温度差を解消し快適に入浴できるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人1人が安心して休息安眠できるよう居室の環境整備や室温調整を心掛けている。日中、なるべく活動して頂き、夜間良眠できるよう支援している。また、不眠の方には入床前に足浴促しリラックスできるよう援助している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人カルテに薬剤説明書は添付している。内服薬の変更時は通院報告書や介護日誌に記録し申し送りを確実にし職員全員が確認できるよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入所者1人1人の生活歴や現在の能力を活かした役割を大切に、張り合いや喜びを持って生活できるよう支援している。活動時は、他入所者と交流を図り、本人が好まれる塗り絵や学習プリントなどに取り組めるよう配慮したり、近所の散歩や日光浴を楽しんで頂けるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入所者の体調や気分に合わせて日光浴や散歩などの支援を行っている。季節の花見では、車窓から見学できるよう工夫し、夏場は車内で食べられるアイスクリームを購入し、ドライブを楽しんで頂いた。また、家族の法事の際は、家族の協力のもと、外出支援している。 | 天気の良い日は外気浴やホーム近くの波止場まで散歩に行くなど、入居者の気分転換を図っている。地域の広報誌へ掲載された名所へのドライブやコスモス見学など入居者の楽しみとなっている。正月に自宅へ外泊をされた際は、職員が自宅までの送迎や状態報告を行うなど、入居者・家族が安心して過ごせるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分自身でお小遣い程度のお金を所持されている方は、受診などで外出した際に、希望があれば買い物ができるよう支援している。また、購入した食べ物を自室の冷蔵庫に保管される場合は、期限の確認や摂取量を確認を定期的に観察し、記録や申し送りを確実に行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | パソコンを使用しリモート面会を行ったり、テレビ電話にて家族と会話できるよう支援している。一時的に面会の緩和が出来た時は、場所や時間の制限を設け、支援を行っている。県外に住まれる家族へ、1～2か月に1回程度でご本人が絵ハガキを作成し送っている方もいる。また、請求書を送付する際は手紙に写真を同封して日常の様子を伝えるよう心がけている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所者の作品をリビングや居室に飾り、また、地域の方から頂いたお花や飾り物をリビングやトイレに飾り生活感や季節感を感じられるよう工夫している。入所者の家族の写真も居室に飾り居心地よく過ごせるよう支援している。 | リビングの大きな窓からは日本海や平戸を眺めることができ、入居者の癒しとなっている。対面キッチンで調理をしている姿や匂い、入居者と一緒に料理の味見をするなど家庭的な雰囲気が窺える。日当たりの良い廊下にはベンチを設置し、入居者が思いおもいの場所で過ごせるよう配慮している。リビングには地域の方からの季節の花や作品が飾られており季節を感じることができる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入所者1人1人、思いのまま、穏やかに過ごせるよう椅子やソファの配置や種類を工夫している。食事の際も気の合う方と思い思いに過ごせるよう座席を考慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所される前に、本人や家族に説明しできるだけ使い慣れた物や好みの物を用意して頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、ご本人の希望がある際は一緒にパンフレット等で選んだりして購入し支援している。 | ホームは入居時に入居者・家族と一緒に相談しながら家具の配置等を検討するなど居心地よく過ごせるよう支援している。家具の配置替えをする際は家族に了承を得、家族も居室環境を把握できるよう支援している。居室への持ち込み品として冷蔵庫・加湿器・賞状・ぬいぐるみ・キャビネット等があり、入居者が安心して過ごせる空間となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入所者が好まれる場所や過ごしやすい場所にソファや椅子を設置し、穏やかに過ごせるよう援助している。家電製品は入所者が怪我や事故に合わないよう安全な場所へ設置するよう心がけている。 | | |